

最多 大賑わいの9, 900人

能登小木港イカす会

5月27日、石川県漁協で能登小木港イカす会が開催されました。

イカす会は開会前から見所満載。小木小学校5・6年生による鼓笛隊が小木港周辺を行進しイカす会の開催を高らかに告げ、能登高校書道部員が書道パフォーマンスを披露。小木の婦人会員らも加わり大きな「烏賊」の文字を力強く書き上げ開会に華を添えました。

イベントは威勢の良いイカ釣りやイカのつかみどり、一尾船凍イカ早抜き世界選手権や、中型イカ釣漁船見学などイカ満載の楽しめる企画が盛りだくさん。

体験や学びの企画も目白押し。県水産総合センターの調査船「白山丸」でのイカ釣り漁業体験や、イカを解剖して仕組みを学ぶ「めざせイカ博士!」、水槽に入れられたナマコやヒトデなどを触ることが出来る金沢大学臨海実験施設のコーナーなどがあり、イカをはじめとした海の生物とふれあいながら楽しく学べます。

会場に立ち並ぶグルメテントには列ができ、炭火焼きコナでは新鮮な海産物を思い思い焼いて味わう来場者の姿が見られました。

今回は県内外から過去最多となる約9,900人が訪れ、イカを見て触って味わつて、イカの祭典を満喫しました。



イカ釣り体験



手がしびれる船凍イカの冷たさ



思いのこもった一筆が入った



イカを解剖してお勉強



寄せられる応援を力に

イカの伝統と魅力を全国へ

イカの魅力を発信し地域を元気にする「能登小木港スマイルプロジェクト」は、失われつつある魚食文化を守り、若い世代へのイカ料理の普及を図ろうと、現在、地区に伝わる伝統料理「イカの甘酢漬け」の商品化と、地区や家庭で人から人に受け継がれてきたレシピの記録と普及に取り組んでいます。

実現するためには料理づくりのノウハウを持つ地区の住民の協力や商品作りにかかる資金が欠かせません。そこで、プロジェクトでは、「イカの甘酢漬け」作りをした経験が豊富な60歳以上のプロジェクトメンバーから作り方や味付けを教わりレシピの



イカす会で募金を募るメンバー

「見える化」を図り、資金は「クラウドファンディング」を活用し、インターネットでの資金調達を決めました。

また、今回のイカの魅力を発信する取組みは、昨年8月に東京大学のフィールドスタディー型政策協働プログラムで能登町に約3週間滞在した大学生らが、町の課題を学び、解決策として提案したことがきっかけです。

プロジェクトメンバー なんせやってみよう

イカの甘酢漬け作りを教える、プロジェクトメンバーの宮下順子さんは「頑張っているのだから、私たちも応援したい」と話し、若い世代が奮闘する姿を見て、力になればと感じ一緒に取り組んでいると参加する想いを語ります。また、活動する中で自身も残していく大切さを意識するようになったと話します。

イカの甘酢漬け作りは、野菜を細いイカの中に一つ一つ入れていく必要があります。また、その名のおり、調味酢の中に漬け込んでおく必要があるなど手間暇がかかる料理とされ、作る家庭が徐々に減ってきたとされています。東山隆子さんは「手軽に楽しめるようにすることで、若い世代の食卓にもイカや魚料理が並びきつかけになれば」と商品化への期待を語り、全国に発送される事で小木が広く知られ地域も賑わえばと想いを馳せます。

◆東京大学生 つながりはこれからも

現在東京大学大学院1年生の河内友佑さんは「純粋に嬉しい」と、携わった提案が生かされ、クラウドファンディングにも多くの応援が寄せられていることを喜びます。

資金調達の枠組みとして提案したクラウドファンディングのメリットは制約の無い資金を外部から取れることや広報活動も同時にできること。プロジェクトの狙いやメンバーの熱意が多くの人に届いている現れではないかと考えを話します。

「字面や写真だけでは生身の経験ができたのはよかった」と滞在での日々を振り返った河内さん。今回のプロジェクトは第1弾でまだまだ途上だとし、今後とも接点を持ち小木地区、ひいては能登町が発展していくために必要なプロジェクトに関わっていきたいと思いを語りました。



能登町の産業の説明を受ける東大生=昨年8月= (左から2番目) 河内友佑さん



(6月6日・小木港)

生命・財産を守る火消しの意気込み魅せる

第14回能登町消防団訓練大会

宇出津新港水産埠頭で6月16日、第14回能登町消防団訓練大会が開催され、16分団、279人の消防団員が分団の団結を確認し、日頃の訓練の成果を発揮しました。



訓練大会結果

総合の部

①松波 ②柳田 ③三波

ポンプ車操法の部

①松波 ②三波 ③秋吉

小隊訓練の部

①松波 ②柳田 ③小間生

ポンプ車操法の部で優勝した松波分団は、7月28日④、石川県消防学校で行われる、県消防操法大会に出場します。また、今回小型ポンプ操法の展示訓練を行った三波分団も小型ポンプ操法の部で出場します。皆様の声援をお願いします。



石川県消防協会会長表彰

優良消防団

▽神野分団(高戸政一分団長・団員12人)▽宇出津第2分団(木村尚司分団長・団員21人)

功労章

▽杉本知夫(小木分団長)▽木村尚司(宇出津第2分団長)▽岩崎真一(高倉分団副分団長)

功績章

▽平 康治(上町分団副分団長)▽川端秀豪(宇出津第2分団副分団長)▽加原武志(松波分団副分団長)

勤続功労章

▽田高直樹(白丸分団班長)▽橋本克治(鶴川分団員)▽高出隼人(鶴川分団員)▽安宅 操(宇出津第1分団員)▽澤田和哉(柳田分団員)▽上野仁寛(宇出津第2分団員)▽磯部勇気(白丸分団員)▽宮下 守(山田分団員)▽時長弘志(三波分団員)▽紙子輝芳(宇出津第1分団員)▽干場智央(高倉分団員)▽河野芳秀(三波分団員)▽徳田啓一(岩井戸分団員)▽向峠 昂(岩井戸分団員)▽上見正人(小木分団員)

能登町長表彰

退職団員感謝状

▽宮腰光昭(元秋吉分団長)

石川県知事表彰

銀盃を授与する表彰

▽坂口政幸(松波分団部長)▽梶 哲朗(白丸分団部長)▽山口浩行(岩井戸分団班長)▽辻浦芳一(柳田分団員)

永年勤続団員の

配偶者等に対する感謝状

▽上野佳子(神野分団員、上野達二の妻)▽宮腰朋子(元秋吉分団長、宮腰光昭の妻)

じっくりとお酒楽しむ一日 ぶらり酒蔵めぐり

6月9日、町内の3つの蔵が合同で開催する蔵開き「ぶらり酒蔵めぐり」が開催され日本酒ファンを始め町内外から多くの来場者で賑わいました。

3回目を迎える今年は鶴川の鶴野酒造店オープンディングイベントが行われ、子どもらによる威勢の良いわか太鼓が披露され幕が開きました。

各蔵では、振るまい酒や蔵見学、利き酒などをはじめとするお酒に親しむ様々な催しが行われたほか、酒粕エステヤグルメ、物販コーナーなども設けられ、お酒を飲める方から、飲めない子どもまで家族みんなが参加できる企画が用意されました。

また、当日は大学連携推進事業の一環で金沢大学や金沢星稜大学の学生ら15人が開催をサポートし、来場者をもてなしました。



オープンディングイベント

物販コーナー



ソムリエから美味しい飲み方を伝授

第61回能登町内浦一周駅伝競走大会

今年で61回を数える伝統の大会、「能登町内浦一週駅伝競走大会」が6月3日開催されました。14チーム70人が参加し、スタート地点の役場小木支所前から内浦陸上競技場までの20.1km、5区間を仲間と力を合わせてタスキをつなぎ駆け抜けました。

一部(町内在住・在勤者)

①うしつ(石切大樹、本井蒼空、山瀬健一、修田堅基、山下康輔)

②小木③木郎走志会 A

2部(町外)

①穴水走友会(堂下優也、泉健一、大目裕司、新田耕司、谷口雅軌)

②SUZU BEACH BOYS

③のとらんなーず



勢いよく走り出す1区走者



大会結果は、各競技団体・学校などからの情報提供に基づき掲載しています。

第23回わんぱく相撲のと大会

6月2日、松波中学校の屋内相撲場で「わんぱく相撲のと大会」が開催されました。東京国技館で行われるわんぱく相撲全国大会への予選大会となる本大会には小学生23人が参加し、手に汗握る迫力ある取組みが展開されました。

3年生以下の部

①堂上拓道②嶋垣翔平
③和田悠河・北濱海希

5年生の部

①半田翔誠②坂東佳汰
③堂上陽登

4年生の部

①岡島碧人②蓑島大悟
③梶山夢叶

6年生の部

①橋本晴輝②畑下征吾
③又多悠貴



深く組み合い粘りをみせる

中学生に「学習に関するアンケート」を行いました

5 月度から新たな入塾生を迎え、まちなか鳳雛塾では定期テストやそれぞれの進路目標に向かって学習に取り組む様子が見られます。また中学生は5 月度から時間割をリニューアルし、学習効果をより向上させるために習熟度別クラスとなりました。クラス分けのためにテストを実施しましたが、その際あわせて「学習に関するアンケート」も行いました。



アンケートからみえた まちなか鳳雛塾中学生の特徴

全国結果と比較して

- 学校の宿題や定期テストの勉強にしっかり取り組んでいる
- 「丸暗記すればよい」と考えていたり、「間違いを生かすことの大切さ」を理解してなかったりする
- 「効果的な勉強のやり方」が身につけていない生徒が多い

アンケート回答者数が 32 名と少なく、アンケート結果と考察についてはあくまでも参考値ですが、全国結果と比較しても、まちなか鳳雛塾に通う中学生は学校の宿題や定期テストの勉強をしっかり取り組んでいることがわかりました。

一方で、学習内容の意味を考えず「丸暗記すればよい」と考えていたり、「間違いを生かすことの大切さ」を理解していなかったりする生徒も多いようです。また、勉強してもなかなか成績に結びつかない生徒は、「図や表に書いて考える」「辞書をひく」「友達と教えあう」というような「効果的な勉強のやり方」が身に付いていないこともわかりました。

7 月のまちなか鳳雛塾スケジュール

5 月 7 日から開塾時間・時間割が変わりました。

受講対象者	月	火	水	木	金	土
全学年	16:00 ~ 22:00 自律学習解放					14:00~22:00 自律学習解放
高校生	19:30 ~ 22:00 学習面談日				20:00 ~ 21:00 特別講義	
中学生・発展				19:30 ~ 21:00 一斉演習日※①		
中学生・基本			19:30 ~ 21:00 一斉演習日※①			
小学 4 ~ 6 年生		16:00 ~ 18:00 一斉演習日※②				

※①…中学生の一斉演習日は、学習効果向上を目的に習熟度別に発展・基本の 2 クラスに分け全学年合同で実施。クラス分けは入塾時のテスト結果で判断。入塾後もクラス分けテストを定期的に行い、随時クラスの入れ替えも実施。※②…小学生は㊸・㊹のどちらかを選択。

■開塾時間：月曜～金曜 16:00 ～ 22:00、土曜 14:00 ～ 22:00（日曜・祝日は閉館）
■毎月 29 日～ 31 日は授業を原則休講。自律学習開放は行っています。
■小中学生は各クラスごとに定員有り。定員になり次第募集を停止します。

まちなか鳳雛塾

検索

まちなか鳳雛塾で検索 !!

<https://hosujuku.wixsite.com/machinaka>



☎ まちなか鳳雛塾 ☎ 0768-84-5282

（ひかり電話のため局番が「84」です。）

受付時間 ㊸～㊹の 16:00 ～ 22:00

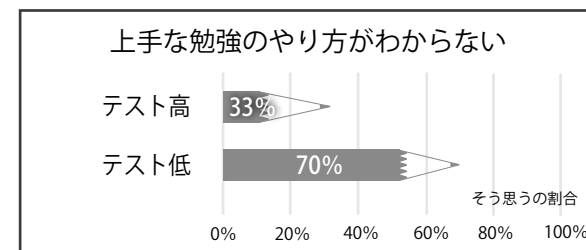
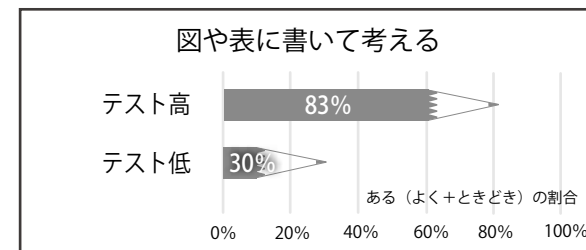
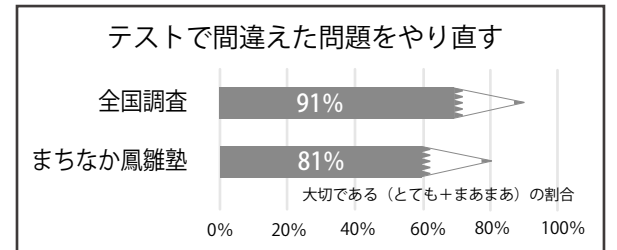
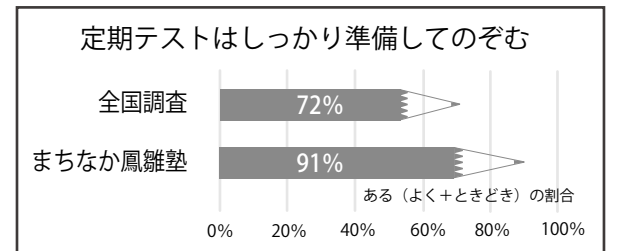
塾生の保護者や入塾を考えている方は、授業見学随時可能です。お気軽にご相談ください。



まちなか鳳雛塾には
駐車場がありません

◇ 全国調査の結果との比較

- ・自己肯定感や自己効力感が高い
- ・出された宿題をきちんとやっていく
- ・定期テストはしっかり準備してのぞんでいる
- ・メリハリをつけて勉強している
- ・勉強する理由として「世の中の役に立つ人になりたいから」が高い一方で、「成績が悪いと恥ずかしいから」「先生や親にしまわれたくないから」といったことを理由にする割合も高い
- ・「テストに出そうなところを丸暗記する」ことが大切だと考える生徒の割合が高い一方で、「テストで間違えた問題をやり直す」「なぜ間違えたのかを考える」ことが大切だと考える割合は低い



このアンケートは 2014 年にベネッセ教育総合研究所が教育心理学研究の学習理論に基づいて実施した「小中学生の学びに関する実態調査」の質問項目を参照に、学習行動や学習に対する考え（学習観）、日頃の勉強の仕方（学習方略）、勉強する理由（学習動機）などについて尋ねたものです。

◇ クラス分けテストの成績と

アンケート結果の関係からみえること

- ・成績が高かった生徒は「図や表に書いて考える」「分からない言葉を辞書で調べる」「友達と教えあったり、問題を出しあったりする」「テストで間違えた問題をやり直す」と答えた割合が高い
- ・成績が低かった生徒は「上手な勉強のやり方がわからない」「何のために勉強しているのかわからない」と感じている割合や、「テストに出そうなところを丸暗記する」「とにかくテストの点数が高ければいい」と答えている割合が高い

アンケートの結果も踏まえて、まちなか鳳雛塾では生徒一人ひとりが主体的、自律的に学習を進められるように今後も支援していきます。

（プロジェクトコーディネーター 木村）

地域の未来を創る能登高校 あなたの手で支えてください

能登高校を応援する会は

- ・生徒の学習環境の整備
- ・クラブ活動の支援
- ・学校の存続発展に関する支援
- ・生徒募集の推進に関する支援

など、地域の高校を支援する団体です。

○申し込み・問い合わせ

能登町役場・支所の窓口および地域戦略推進室、または能登高等学校事務室まで直接お申し込みください。

☎ ふるさと振興課地域戦略推進室 ☎ 62-8512

能登高等学校 ☎ 62-0544

○年会費

個人会員 2,000 円～

団体・企業会員 5,000 円～

発 明への想い熱く

團子石榮作さん 100歳

松波の團子石榮作さんが100歳を迎え、誕生日の6月4日、持木町長から長寿祝い状と花束を受け取りました。團子石さんは不便なものを改良するのが好きな発明家で、仕事は農機具販売や鉄工所、船の修繕業などを営んでこられました。

奥さんや、お祝いに駆けつけた子どもさんやお孫さん家族に囲まれた團子石さんは「感動して何も言えない」と喜びを表し、家族に感謝を伝えました。



家族からも花束と、「もっと長生きしてね」とお祝いの言葉

鮎の力で川を美しく

柳田小 重年地区で鮎の稚魚放流体験

町野川の環境保全や魚の保護活動を行っている柳田河川漁業協同組合が6月6日、柳田小学校の3年生20人を招き鮎の稚魚を放流しました。

体長7センチほどに成長した稚魚約4000匹が用意され、稚魚が入れたバケツを手に、川岸からそっと川に放しました。稚魚の中にはバケツから元気よく飛び出るものも見られ、児童らは驚きの声をあげていました。



稚魚を思いやりゆっくりとバケツを傾ける

教えに従い、マルチに種芋を入れる穴を丁寧に開けていく



田舎暮らしはいかが

春蘭の里で修学旅行生受け入れ

5月31日から6月1日にかけて、千葉県船橋市立行田中学校の3年生322人が、自然と共に生きる能登の田舎暮らし体験を目的に、修学旅行で春蘭の里を訪れました。入村式後、宿泊先ごとに分かれ、畑での里芋植えや伝統芸能「五十里歌舞伎」体験、鵜川漁港での水揚げ現場見学など、様々な田舎暮らしを体験。生徒らは自然や方言など、慣れない環境に戸惑いながらも、目を輝かせて取り組んでいました。

ぐらぐらボール。はやる気持ちを抑え慎重に運ぶ



顔を合わせ交流深める

町婦人団体協議会スポーツ交流会

6月3日、内浦体育館で能登町女性スポーツ交流会が開かれ、町婦人団体協議会員170人が参加しました。

競技に先立ち山崎洋子会長が「交流を深める良い機会、笑顔で楽しみましょう」と挨拶。6チームに分かれた参加者は、ラケットにボールを乗せて走り早さを競う「ぐらぐらボール」やじゃんけんゲームなど5種目で競技を行い点数を競いました。最後まで頑張る選手にはチームを越えあたたかい声援が送られ、絆を深めました。

大きなさつまいもになってね

高倉保育所園児が公民館で野菜植え

5月29日、高倉保育所の園児12人が高倉公民館の畑にさつまいもの苗を植えました。今回用意された苗は30本で品種は五郎島金時。池上正博館長から手順を教わると、作業開始です。深さ10センチほどに掘られた土の中に、長さ30センチほどの苗を寝かせて植えていきます。園児らは「大きくなーれ、おいしくなーれ」と声に出してお願いしながら、苗がきれいに隠れるよう



大きく、おいしくなりますように

土を両手でやさしく載せ、最後にたっぷりの水をかけていきました。

公民館と保育所が協力して行うこの取組みは平成26年から続けられています。苗が根付くまで園児が水やりのお世話をし、大きく育ったさつまいもは10月に収穫し給食の献立に加えたりおやつに使われる予定です。



植え終わり笑顔の園児ら

当 目の米を知ってほしい

首都圏から参加者を招き体験ツアー

当日の住民グループ「夢を語る会」は5月26、27日の両日、東京築地場外市場の関係者4人を招き、当日地区で視察を兼ねた農業体験ツアーを実施しました。

米のおいしさを首都圏の人に知ってもらい、販売促進と交流につなげるのが狙いです。参加者は、昔の田植えについての話を聞き、山間地の水田で田植え体験をしました。また、昼食には当日でご飯や野菜料理が並べられ豊かな自然で育った恵みを味わっていました。



水田のそばで食事をとるツアー参加者ら

今年も多くの個人や団体が参加し美しい砂浜に



能登の里海を守る海岸清掃

クリーン・ビーチいしかわinのとちよう

今年で24年目を迎えた海岸清掃活動「クリーン・ビーチいしかわ」が、5月27日、恋路、五色ヶ浜、羽根の3海岸で行われ、早朝から、地域住民や能登高校生など多くの参加者が、漂着ゴミや流木など回収し、環境保全と地域の美化推進を図る清掃活動を行いました。

この日の参加人数は約400名で、集まったゴミの量は約6トンでした。